

## 「今年のテーマは多様化！」 2015新春・労使共同セミナー ジャーナリスト 内田裕子が語る

今年で13回目となる新春労使共同セミナーは労働組合・経営者など全体で410名の参加がありました。

セミナーは労使が共に認識し合い、考えることを目的としており、今回は、ジャーナリストの内田裕子さんを講師に「取材現場から見える日本経済」と題して講演をいただきました。

講演ポイントをまとめてみました。

### 現場は多種多様！

ジャーナリストは現場主義と言われる。事前資料を揃えて準備万端で出かけても資料は一切役に立たない。現場に行けば何でも分かると言われるけど、現場は多種多様であり真実の一つではない。

特に、新聞・テレビなどのマスコミは偏っている。分かりやすいところだけ伝えて、それを鵜呑みにすることだけはしない方がいい。

例えば、幼児虐待のニュースは「かわいそう」で終わり、改善策がない。これでは一向に幼児虐待は減少しない。テレビは本質にたどり着くには限界があります。

我々、日本人にとって一番難しいテーマであるのが多様性です。新聞は何を伝えたいか、その傾向を掴むのが大切です。また、日本だけではなく、外国は全く違うことを伝えている。ネットでは海外のニュースが日本語で見られます。世界の論点や流れを見ることが重要なのです。

どんな場面でも現状認識が大切であって、いま何が起きているかを把握する。土台が間違っていると、中長期計画は立てられない。いま何が起きているか、自分でカスタマイズしていくしかない。

世の中の流れを見つつ、自分が信頼するオピニオンを見つけ、その人がどのような発言をするか、どのように変化するのかを注視し、また偏ってしまう可能性もあるので反対意見だけど、世の中に影響力がある人の意見も聞く。

女性活用・労働力不足が課題ですが、アメリカが金融緩和して5年で出口が見えた。日本は3年目、いまが正念場なのです。アメリカは人口が増えているが、日本は人口減少に歯止めがかからない。だれも危機を感じていない、昨年発表された「消滅自治体」は消滅の可能性がある自治体がランキングされている。首長や職員には危機感が生まれ、少子化対策の必要性が再認識された。中でも石川県川北町や長野県下條町の施策が素晴らしい。



### ガラケーの方はスマホへ、そして新しい概念で

「生まれながらにスマホ」世代が主要消費者になるのもあと10年です。同じ環境で同じ経営ではトレンドの違いがある。スマートフォンに切り替え、使いこなしましょう。いまならまだ、間に合います。

19世紀と20世紀が雲泥の差があるように、20世紀と21世紀は全く違う。20世紀は電気が発明され、月へまで行っています。皆さんはズルズルと21世紀を跨いでしまった。全く違う意識をもって中長期計画を立てて欲しい。現状認識を持って新しい概念で取り組んで欲しい。



出所：総務省「主な情報通信機器の世帯保有状況」

## 歴史から現状の課題まで学ぶ 研修会

新たに組合や産別・地協の役員となった人を対象に、1月17日、前橋市内で新任役員研修会を開催し70名が参加しました。

研修会では連合結成の歴史、メーデーからフェスティバルへの移り変わりや地協活動など重要な課題を共有しました。また、昨年、テレビ東京で放送された、『ブラック企業問題』に焦点を当て、古賀会長も出演している「緊急特集！ブラック化するニッポン～使い捨てられる若者たちを救え!!～」を放映し、参加者は関心を持って見ていました。

DVDも貸出していますので是非、組織でご活用下さい。



## 当選御礼！

2月8日に投開票された渋川市議会議員選挙は、連合群馬推薦候補者2名が当選を果たすことができました。

産別・地協のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

篠田 徳寿 (基幹労連)

南雲 鋭一 (JEC連合)